

研究テーマ 謝罪報道にあらわれる広報戦略と地域性

所属 学術研究部 教育研究推進系 教育教養学系

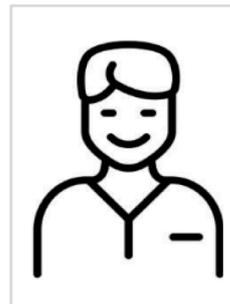
講師 LIU XIAOXUE

研究分野	広報論、メディア論、コミュニケーション論、危機管理、公共政策
キーワード	行政広報、メディア、リスク・コミュニケーション、クライシス・コミュニケーション

研究室URL :

研究の背景および目的

本研究は、日本の行政機関や企業が行う謝罪報道において地域特性の差異とメディア戦略の解明を目的とする。対象は中日本の地域紙とブロック紙と全国紙地域面である。分析手法はテキストマイニングと機械学習による内容分析、感情分析、ネットワーク分析である。そこから、地域メディアにおける謝罪情報の伝達内容の中心を明らかにし、地域における新聞の世論形成、危機時の謝罪広報戦略の地域特性を反映した理論的検討、行政広報・危機管理研究分野に貢献を図る。



■ 主な研究内容

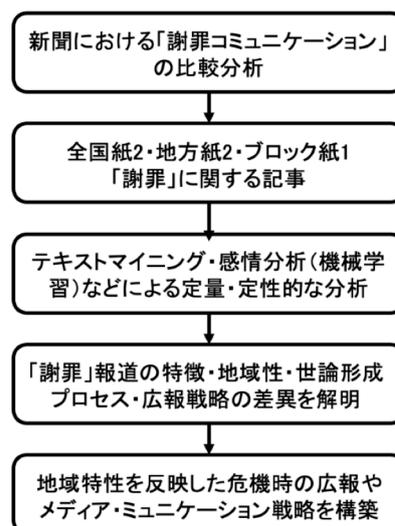
本研究では、全国紙・地方紙・ブロック紙に掲載された謝罪報道記事を対象に、

①テキストマイニングによる頻出語・共起語の分析を通じて、報道の内容や表現の違いを可視化し、地域ごとの報道傾向を定量的に明確化する。

②各記事を自然言語処理および感情極性辞書、もしくは日本語BERTベースモデルを用いて感情スコアリングし、地域紙と全国紙での報道後の読者の受容傾向（共感・反発など）の差を分析する。

③謝罪報道に対するSNS上の引用ツイート・リツイート・コメントを収集し、情報の拡散パターンをノードとエッジで構成されたネットワークとして可視化・分析する。

これにより、謝罪の伝達構造、受容感情、地域的な反応特性の3点を複合的に把握し、謝罪コミュニケーションが地域社会に与える影響を実証的に明らかにする。最終的には、地域性に応じた信頼回復戦略を提案する理論的基盤を構築することを目標とする。



期待される効果・応用分野

- ▶ 地域差とメディア特性に基づく「謝罪コミュニケーション」の効果を実証的に可視化し、危機広報研究に新たな知見を提供。
- ▶ 行政・企業による謝罪発信の戦略設計に関し、地域特性に応じた有効な手法を提示。
- ▶ 地方自治体・報道機関にとって、読者・市民の受容傾向に基づく報道スタイルや説明責任のあり方の再検討に資する。
- ▶ 公共政策、ジャーナリズム、社会心理学、NLP応用など複数分野における横断的な応用が可能。

■ 共同研究・特許など